

人と自然が輝く水源の郷

～住んでみたい村 住んでよかった村～

概要版



道 志 村



人と自然が輝く水源の郷

～住んでみたい村 住んでよかった村～

我が国は今、本格的な人口減少社会を迎え、情報化の進歩、国際化の進展、大規模災害や深刻化する環境問題など社会・経済・環境情勢は急激に変化しています。また、国では、地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持して行くことから「まち・ひと・しごと創生法」による地方創生を推進しています。

道志村では、時代を的確に把握し、長期的な展望にたった総合計画を策定し、村民の皆様「住んでみたい村、住んでよかった村」と言ってもらえるむらづくりに積極的に取り組んでいます。

そのような中、持続可能な地域社会をつくっていくためには、これまで村民総参加のまちづくりを主眼として取り組んできた成果を踏まえ、本村の特性を生かしつつ、住みよいむらづくりに向けた目標を村民の皆様と共有する必要があります。その実現に向け、村民の皆様意見、村民アンケート等を踏まえ新たな「道志村総合計画」を策定しました。この計画では、現在道志村に住む人が安全・安心に道志村に誇りを持って生活できることが、魅力的な村として道志村を発信できることにつながるという考えから、村民の方々が真に豊かさを実感できるむらづくりを目指します。

今後は、まちづくりの将来像に掲げる「人と自然が輝く水源の郷」の実現に向けて、村民が主体となり、地域、企業などとの信頼と連携のもとにむらづくりを推進し、10年後を目標に、村民一人ひとりが安らぎと潤いのある生活を送れるよう、安定した活力あるむらの創出を目指します。村民の皆様には、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、この計画の策定にあたりまして、貴重なご意見やご提言をいただきました村議会、多くの村民の皆様、熱心にご審議をいただきました道志村総合計画審議会の皆様に対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成28年3月

道志村長

長田富也

むらづくりの基本理念



■ 美しいむら

道志村の水は、赤道を越えても腐らないことで知られる「日本一の水」と称賛されています。この日本一の水にふさわしい日本一の環境を創っていくためには、水源地や溪流の積極的な保全と美しい景観の形成を推進します。

■ 住んでみたいむら

今後とも道志村に住み続けるために、また、移住を促進するためには魅力ある雇用の場の確保が必要です。そのためには、道志村の地域資源等を最大限活用しながら魅力ある雇用機会の創出に努めます。また、買い物環境の整備や、効率が良く利便性の高い道路・交通網の整備も推進します。



■ 教育環境が充実するむら

道志村では、人口が少ない地域ゆえ小学校や中学校が小規模です。しかし、小規模校だから可能となる特徴ある教育プログラムを提供しています。豊富な自然環境の中で、ICTを活用し、少人数制におけるきめ細かい教育展開を推進するとともに、山間の狭い地形が育んだ住民同士の強いつながりや地域ごとに異なる神楽等多くの豊かな伝統芸能が存在していることから、こうした地域資源を維持していきます。また、地域住民が地域の宝である人材を育てる教育を推進します。



■ 安全・安心なむら

福祉では都市部の自治体と同程度のサービスをめざし、過疎地・山間地の不利を克服します。医療面でも診療施設の充実や高齢者の送迎、緊急、災害時の対応強化などにより、安心できるむらづくりを推進します。また、近年の地震災害では、山間地での被害は甚大なものとなっていることから、救急救命体制の確立や災害対策備品の充実を推進します。このほか、交通事故の対策や、地域で見守る防犯体制の展開による治安維持を通じて、安全・安心なむらづくりを推進します。



■ 自立した協働のむら

道志村では、今後とも厳しい財政状況が予想されるなか、自主財源を確保していく必要があります。また、今まで行政が提供してきた公共サービスについても、住民や企業、団体、NPOなどに担い手を積極的に広げていくことが望ましいという意見も多く、協働による自治体運営を推進します。



将来像

人と自然が輝く水源の郷

～住んでみたい村 住んでよかった村～

1

自然環境・生活基盤の整備推進

四季折々の変化に美しく映える山々と村の中心を流れ、横浜市の水源地となっている「道志川」は、村民だけでなく村外から訪れる人々に潤いと安らぎを与えてきました。こうした環境を後世に引き継ぐため、水源地や溪流などの積極的な保全と、美しい景観の形成を図ります。

また、村民の快適で安全な生活の確保や産業基盤の充実、交流人口の増加を図るため、国道・県道の幹線道路の整備促進を要望するとともに、村道や農道・林道の整備を行います。このほか、車の運転ができない村民のために、利用しやすい効率的な村内の公共交通のあり方を検討するほか、村内で暮らす住民が安全・安心して生活できるよう、災害時の対応や防犯体制の強化、交通安全対策を推進します。

- 1 自然景観および道志川の水質の保全
- 2 地域景観の保全
- 3 公共交通の維持・充実
- 4 道路網の整備
- 5 交通安全・防犯対策の充実
- 6 防災施設・体制の充実

2

産業・地域経済活性化の推進

道志村は、村全体が富士北麓と神奈川県を結ぶ国道413号に面している恵まれた立地条件にあり、横浜市との継続的な友好事業を推進しています。豊富な自然環境も活用する中で、横浜市民や富士山観光に訪れる国内外の観光客など交流人口の増加は今後も見込めます。また、本村と縁のある企業との提携による雇用創出や特産物を活用した新規就農者の支援を行うことで、就業環境を改善していき、移住者確保につなげていきます。

団塊の世代や都市と田舎に住む二地域居住を実践するこれらの交流人口を、新たな産業基盤を育む起爆剤にしていきます。

- 1 商工業の振興
- 2 農林業の振興

3

教育・文化の推進

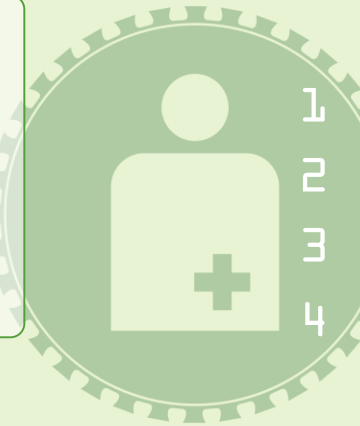
山間の狭い地形の中での生活が、住民同士の強いつながりを生み、地域ごとに異なる神楽等多くの豊かな伝統芸能の維持・発展につながったと言われています。こうした地域に暮らす村民は「人情豊か」と評価されており、道志村の宝として、今後とも道志村で生まれた歴史と文化を維持していきます。また、豊富な自然環境や小規模小・中学校の利点を活かし、きめ細かい指導や個性的で特徴のある教育を推進します。

- 1 学校教育の充実
- 2 生涯学習・スポーツの振興
- 3 文化の振興

4

医療・福祉環境の充実

医療・福祉環境が充実し、道志村が選ばれ、道志村で暮らす「道志スタイル」を確立することを目標に、都市部との連携による社会福祉施設の誘致、村民の助け合いによる保育制度など、サービス水準の向上をめざします。医療面では地域医療の充実を図り、村内外の医療機関への送迎やヘリポート整備などによる救急救命体制を確立し、安心できるむらづくりを推進します。



- 1 高齢者福祉の充実
- 2 子育て環境の充実
- 3 障害者福祉の充実
- 4 地域医療の充実



- 1 効率的な行政の確立
- 2 協働のむらづくり
- 3 人口減少問題への対策



5

運営・協働の推進

国、地方とも危機的な財政状況にあり、人口減少社会が進んでいます。こうした状況を踏まえ、安定した地域運営を目指し、健全な財政の確立に努めます。また、本村の規模・行政サービスにふさわしい適正な職員数の確保や事務事業及び組織機構の見直し、アウトソーシング、高い意識・専門知識を持った職員の育成などを推進します。さらに、簡素で効率的な村政の体制を構築することはもちろん、新たな行政課題に対応していくためにも、住民、NPO、企業、行政が一体となったむらづくりを推進します。



施策の体系

将来像

目 標

施 策

人と自然が輝く
水源の郷

自然環境・生活基盤の
整備推進

- 1 自然環境および道志川の水質の保全
- 2 地域景観の保全
- 3 公共交通の維持・充実
- 4 道路網の整備
- 5 交通安全・防犯対策の充実
- 6 防災施設・体制の充実

産業・地域経済活性化
の推進

- 1 商工業の振興
- 2 農林業の振興
- 3 観光産業の振興

教育・文化の推進

- 1 学校教育の充実
- 2 生涯学習・スポーツの振興
- 3 文化の振興

医療・福祉環境の充実

- 1 高齢者福祉の充実
- 2 子育て環境の充実
- 3 障害者福祉の充実
- 4 地域医療の充実

運営・協働の推進

- 1 効率的な行政の確立
- 2 協働のむらづくり
- 3 人口減少問題への対応



道志村総合計画

2016～2025

発行日
発行者

平成28年4月

道志村役場

編 集

山梨県南都留郡道志村6181-1
道志村役場ふるさと創生推進室